



# 敦賀発電所2号機 追加調査計画について

2025年9月22日  
日本原子力発電(株)

# 敦賀発電所2号機 追加調査計画の概要

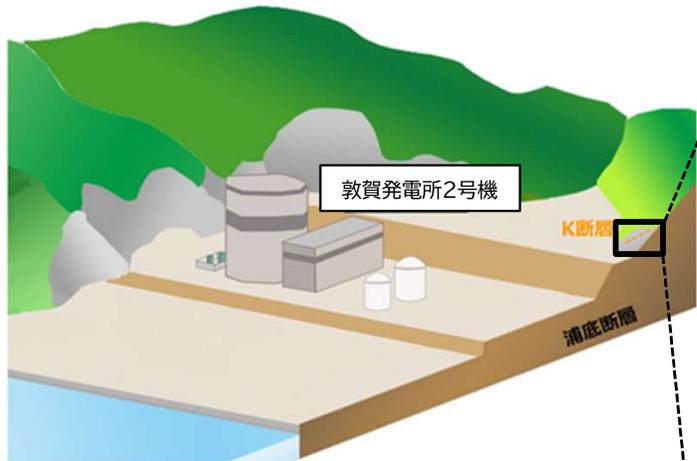
- 追加調査計画は全体として再申請に必要な全ての調査を行っていくが、そのうち、まずは再申請に当たって重要となるK断層に関する調査及びその他の破砕帯等に関する調査、評価等を2年程度かけて実施する予定であり、9月16日より調査を開始している。
- この調査により取得したデータの分析・評価結果を踏まえ、再申請に向けて、更に必要な調査や従前の評価を補強するためのデータ取得等を進めていく。

項目	調査目的	調査位置・概要	2025年度		2026年度		2027年度
			上期	下期	上期	下期	
1	K断層の分布と性状	(1) K断層が屈曲している箇所における岩盤までの掘削や、D-1トレンチの地下深部までのボーリング調査を行う。		ボーリング調査、掘削等調査			再申請に向けて更に必要な調査等を進める
2	K断層の活動性	(2) <ul style="list-style-type: none"> <li>• D-1トレンチの北西法面のボーリング等による地質の詳細調査を行う。</li> <li>• ふげん道路ピットの上載層から採取したブロックの内部構造をCTで確認する。</li> </ul>		ボーリング等調査			
3	K断層の連続性	(3-1) ふげん道路ピットを岩盤まで掘削し、K断層が南方に連続していないことを直接確認する。		掘削等調査			
		(3-2) ふげん道路ピットから敦賀発電所2号機原子炉建屋側への延長部において、調査坑によるK断層の追跡調査を行う。			調査坑による追跡調査		
4	その他の破砕帯等	(4) 原子炉建屋周辺の地質、破砕帯の性状、原子炉建屋直下の破砕帯の活動性、その他の破砕帯の分布、活動性等について、ボーリング調査、調査坑による調査を行う。		ボーリング調査、調査坑による調査等			

※調査期間には手続き等の準備期間を含む。

なお、これまでのK断層に係る審査での指摘を踏まえ、従前の評価を補強するためのデータ等についても、再申請に向けて取得する。

- K断層の活動性については、K断層の年代が12~13万年前より古い地層に覆われており、12~13万年前より古い断層であることを、これまでも立証に努めてきたが、地層の拡がりや堆積年代に係るデータを拡張し、確実に証明する。
- また、D-1トレンチ(ふげん道路ピット)から原子炉建屋の方に向かってK断層の連続性の有無を確認する。



## D-1トレンチ

(1) K断層の分布と性状調査

(2) K断層の活動性調査

北西法面

K断層

浦底断層

1-1ピット

(3-1) K断層の連続性調査

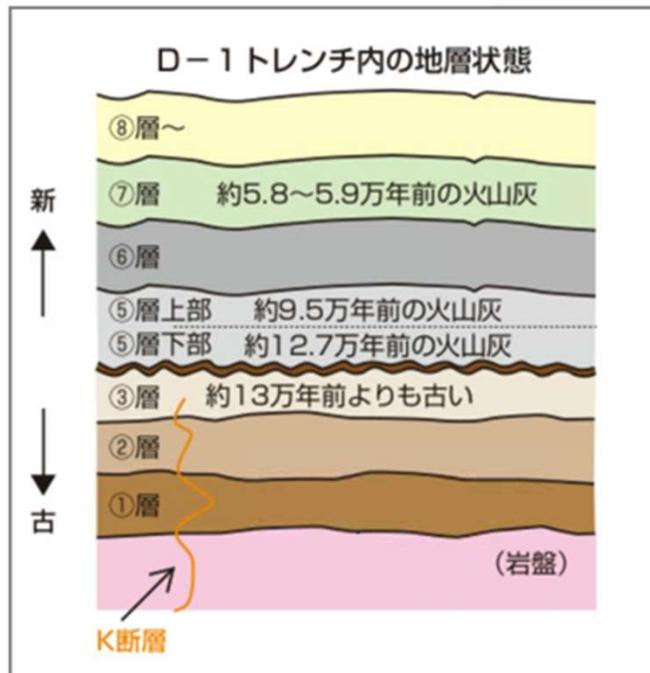
ふげん道路ピット

(3-2) K断層の連続性調査  
(原子炉建屋側への追跡調査)



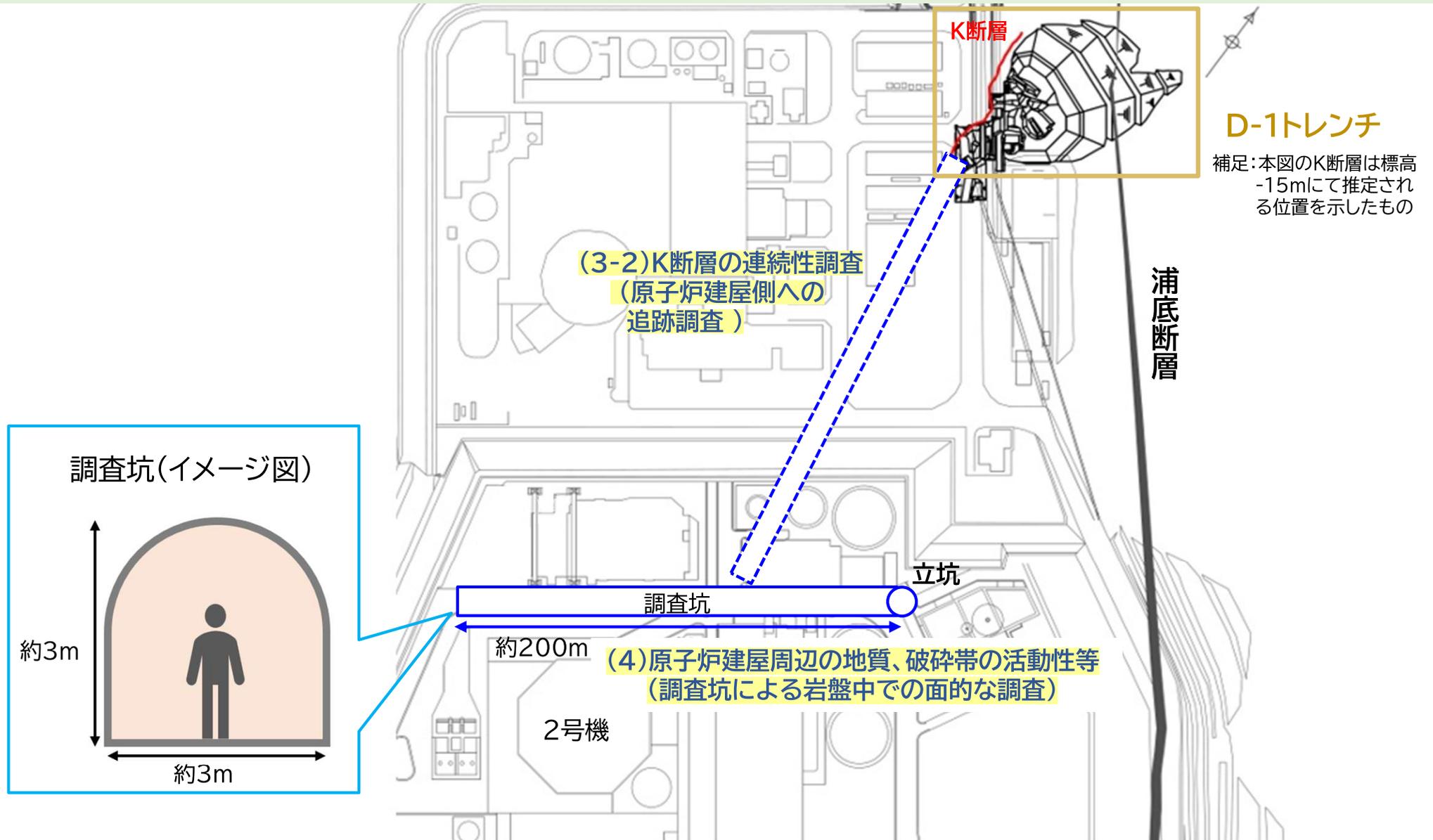
9/16より岩盤までの掘削を開始

補足: 本図のK断層は露頭にて観察した位置を示したもの



# D-1トレンチより南方での追加調査(概要)

- K断層の連続性については、これまでボーリング調査による破碎部データ(点のデータ)に基づいて評価してきたが、今回は岩盤までの掘削や調査坑により面で観察し、K断層が重要施設の直下まで連続していないことを確実に証明する。
- また、原子炉建屋周辺の地質、破碎帯の性状、原子炉建屋直下の破碎帯の活動性、その他の破碎帯の分布、活動性等について、ボーリング調査、調査坑による調査を行う。



- この調査により、取得したデータの分析・評価結果を踏まえ、再申請に向けて、さらに必要な調査や、従前の評価を補強するためのデータ取得等を進めていく。また、得られたデータについては、社外の専門家の意見も踏まえながら、分析・評価を行っていく。
- 調査にあたっては、現場作業の安全確保を最優先に、十分に安全に配慮して作業を進めていく。
- 調査状況等については、当社のホームページや広報誌等による情報発信に加え、訪問対話活動などの広報活動を通じて、地域の皆さまへの丁寧な情報発信に引き続き取り組んでいく。
- 当社は、引き続き2号機の再申請、稼働に向けて取り組んでいく。発電所は長期停止しているが、引き続き、発電所設備の維持管理を確実にを行い、安全確保に努めていく。